

令和8年度 安井息軒記念館 秋の企画展

本年は、安井息軒が明治9(1876)年に亡くなってから、ちょうど150年目にあたります。

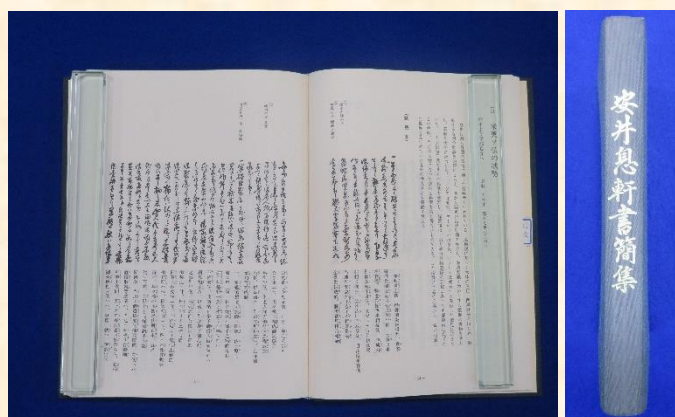
安井息軒の没後、息軒を尊敬する多くの人々が、その生涯や功績を伝え広げていくための努力を重ねてきました。

今回の展示では、そうした顕彰の歴史をふりかえります。



昭和初期の半九公園（現在の安井息軒旧宅）

そうしてようやく昭和4(1929)年7月30日、公園は「半九公園」と名付けて開園(現在の息軒旧宅)。正面には「安井息軒先生誕生地」の顕彰碑が建てられ(表面の写真参照)、園内には息軒父子が愛した梅の木が植えられました。清武村民を中心とした顕彰の心が初めて形になり、以後この地は安井息軒顕彰の中心になりました。



安井息軒書簡集

【半九公園と安井息軒先生誕生地碑】

息軒の没後三十年ほど経った明治の終わり頃には、息軒の生誕地である清武で顕彰の気運が芽生えています。その後大正元(1912)～3年に続けて「安井息軒先生」(安井小太郎著)、『安井息軒先生』(若山甲藏著)、「安井夫人」(森鷗外著)など息軒の生涯と業績に関する著作が発表されたことで、次第に顕彰の気運は高まっていきました。

大正12(1923)年には清武村が息軒の生家の主屋と宅地を購入して公有化し、顕彰組織の安井息軒遺跡顕彰会が浄財を募るなど、官民一体で公園化事業に取り組みました。

【安井息軒書簡集の刊行】

昭和に入ると安井家より貴重な直筆書籍や衣類、書簡類が清武町に寄贈され、保存されました。このうち書簡については昭和60(1985)年、教育長でもあった黒木盛幸氏によって他の書簡も含めて収録し活字化された『安井息軒書簡集』が安井息軒顕彰会の手によって刊行され、息軒の人となりを知る貴重な資料となりました。

【安井息軒旧宅の整備】

息軒生家は昭和4年の公園化時は新町に売却されており、後に村が買戻しましたが、すでに敷地内の元の場所には記念碑が建立されており、敷地の北西の隅に移築されていました。

その生家も長年の時を経て痛みも目立ってきたことから、平成4(1992)年～5年度に保存修理と元々の位置への移築を行い、安井家が生活した往時の姿を現在に伝えています。

